

2018年6月29日
SGH連絡協議会
第一部分科会F

SGHカリキュラム開発について

兵庫県立兵庫高等学校



緑を繋ぐ、未来へ繋ぐ。

110

兵庫高校
創立110周年
110th Anniversary 1908-2018



- 創立110年目
- 普通科7クラス, 創造科学科1クラス
- **平成27年度 S G H指定**
- 平成28年度 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究指定
- 平成29年ユネスコスクール加盟



所在地 神戸市長田区

- 阪神淡路大震災で被害の大きな地域
- 人口の流出（減少）
- 少子高齢化の進展
- 多様なルーツをもつ住民



1. 本校のSGH化の方向性
2. 学校設定科目によるカリキュラム開発
3. SGHの校内外への普及
4. 成果と課題



本校のS G H化の方向性

普通科：普通科から入学後40名選考

- ・グローバルリサーチⅠ（1年）
- ・グローバルリサーチⅡ（2年）
- ・グローバルリサーチⅢ（3年）

創造科学科：推薦入試により40名選考

- ・創造基礎
 - ・R R E
 - ・課題研究
- （1年）
- ・創造応用（2・3年）

本校のSGH化の方向性

創造科学科

- 文理融合のテーマ設定
- 課題研究の方法
- 評価の方法
- 教員の研修
- 外部との連携

理数に
関する教育

社会参画に
関する教育

メソッド

人的資源

理科
数学科

普通科グローバルリサーチ

国語科
地歴公民科
保健体育科
英語科
情報科
家庭科

普通科SGH対象外生徒

創造科学科の取り組み

1. 「創造基礎」

2. 「創造応用」

学校設定科目によるカリキュラム開発

「創造基礎」 創造科学科 1年（40名）対象 3単位

授業名	校内担当	連携先
創造基礎 A (1単位)	創造科学科副科長 (地歴公民科)	財務省, 外務省, 厚生労働省, 兵 庫県, WHO, 他
創造基礎 B (2単位)	創造科学科科長, 創 造科学科副科長, 数 学科, 英語科, 理科, 実習助手 計8名	神戸市, 地元企 業, NPO, 他

平成29年度 長田区との連携協定を締結

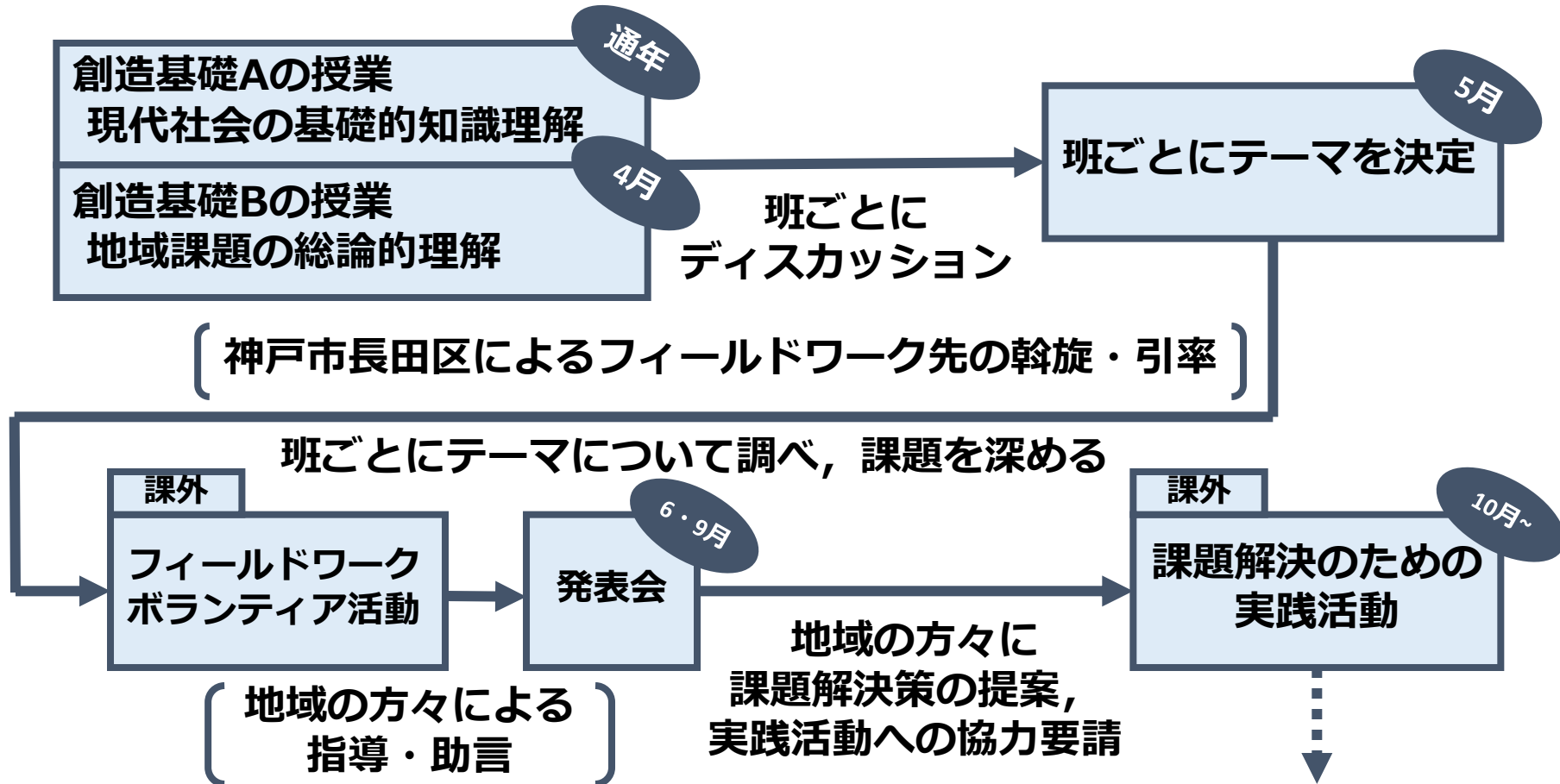
「創造基礎 A」 (1単位)

- ローカル・ナショナル・グローバルな課題について外部講師の講義やワークショップ形式で授業を展開

「創造基礎 B」 (2単位)

- 神戸市長田区と連携し、課題設定, 調査研究, 提案, 実践活動を展開
- フィールドワークやボランティア活動, 実践活動は課外活動で展開
- **課外活動を 1 単位として認定**

「創造基礎」授業の流れ



Universal Health Coverageに 向かってともに歩もう

- ・ 考えが深まったこと

〈生徒感想〉

UHC達成に最も大切なことは、国民全体に等しく、負担が少ないことだ。ただ、いくら医師を増やしても交通網が全く発達していない多くの途上国にとっては診てもらいにいくのに負担がかかる。そこで必要になるのは先進国の技術支援だ。支援と言えばお金のイメージが強かったけど、財政はそれぞれのできる範囲で段階的に進めることがUHC達成につながると分かった。また、**少子高齢化をポジティブ**考えられるようになった。数年後には高齢化のアンダーラインが65歳から70歳になっていてもおかしくないと思う。



WHO職員による出前講義



UHCに関する議論

「やさしい日本語」でやさしいまちに



地域に住むベトナム人へのヒアリング

学校設定科目によるカリキュラム開発

「創造応用」 創造科学科 2・3年（文系）対象 7単位

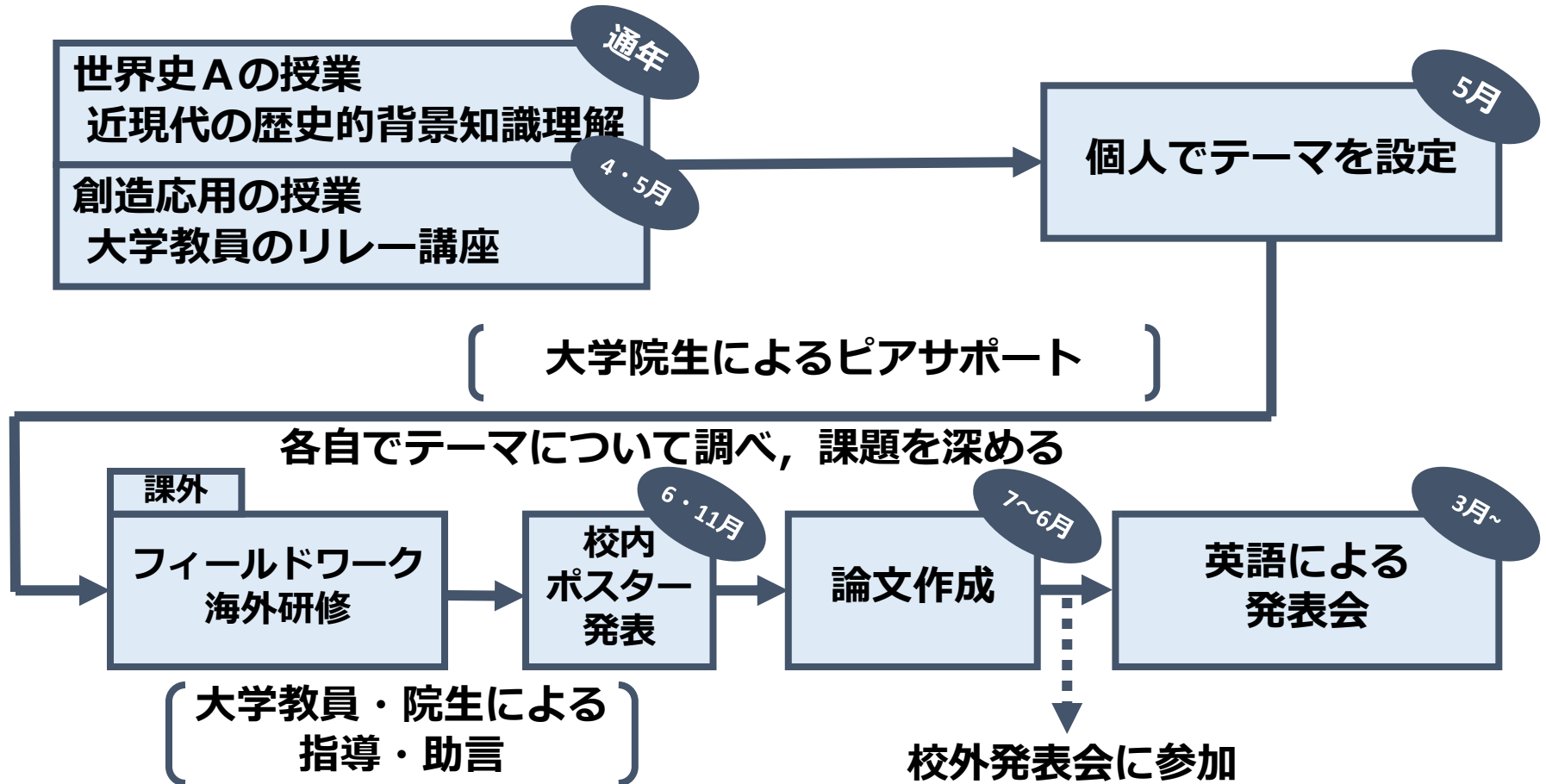
授業名	校内担当	連携先
創造応用 （文系）	創造科学科副科長， 国語科，地歴公民科， 数学科，英語科，実 習助手 計10名	兵庫県，神戸市， 大阪大学，WHO， 地元企業，NPO， 他

平成25年度 大阪大学大学院国際公共政策研究科
と連携協定を締結

「創造応用（文系）」（2・3年合計7単位）

- グローバル課題についてテーマを設定し、研究を論文にまとめる
- 大阪大学大学院国際公共政策研究科と連携し、大学教員や大学院生のピアサポートを受ける
- 国内外のフィールドワークにより、研究を深める
- 校外の発表会に積極的に参加
- **課外活動を1単位として認定**

「創造応用」(文系) 授業の流れ



研究テーマ

- これからの英国の通商政策の予測
- フランスのテロ事件の背景
～ムスリムの社会的排除～
- なぜ日本の国会はクォータ制を導入できないのか？
- 地域におけるベトナム人住民に対する社会的包摂について



普通科の取り組み 「グローバルリサーチ」

学校設定科目によるカリキュラム開発

普通科 1～3年（各40名）対象 3単位

授業名	校内担当	連携先
グローバル リサーチⅠ	地歴公民科, 英語科, 実習助手 計6名	兵庫県, 神戸市, 大阪大学, 神戸 市外国語大学, 龍谷大学, 地元 企業, NPO, 他
グローバル リサーチⅡ	地歴公民科, 英語科, 実習助手 計6名	
グローバル リサーチⅢ	地歴公民科, 英語科, 実習助手 計5名	

放課後の時間を使った授業を展開

校外の活動（研修・発表会）も含めて単位を認定

「グローバルリサーチⅠ」（1単位・1年）

- 「**足もとの国際化**」をテーマに、地域や日本におけるグローバル課題について外部講師による講義を受ける
- 研究テーマを各自で設定し、同じカテゴリーの生徒と班を作る

「グローバルリサーチⅡ」（1単位・2年）

- 研究した内容をポスターやスライドにまとめる
- 校内や他校との合同発表会で研究成果を発表する

「グローバルリサーチⅢ」（1単位・3年）

- 研究成果を論文としてまとめる

「グローバルリサーチ」授業の流れ

グローバルリサーチⅢ

グローバルリサーチⅡ

グローバルリサーチⅠ

テーマ設定

- ・リレー講座
- ・外部研修参加
- ・グループ分け

発表形式

- ・ポスター
- ・口頭発表
- ・外部発表会への参加

研究成果 のまとめ

- ・論文作成
- ・研究報告書

研究テーマ

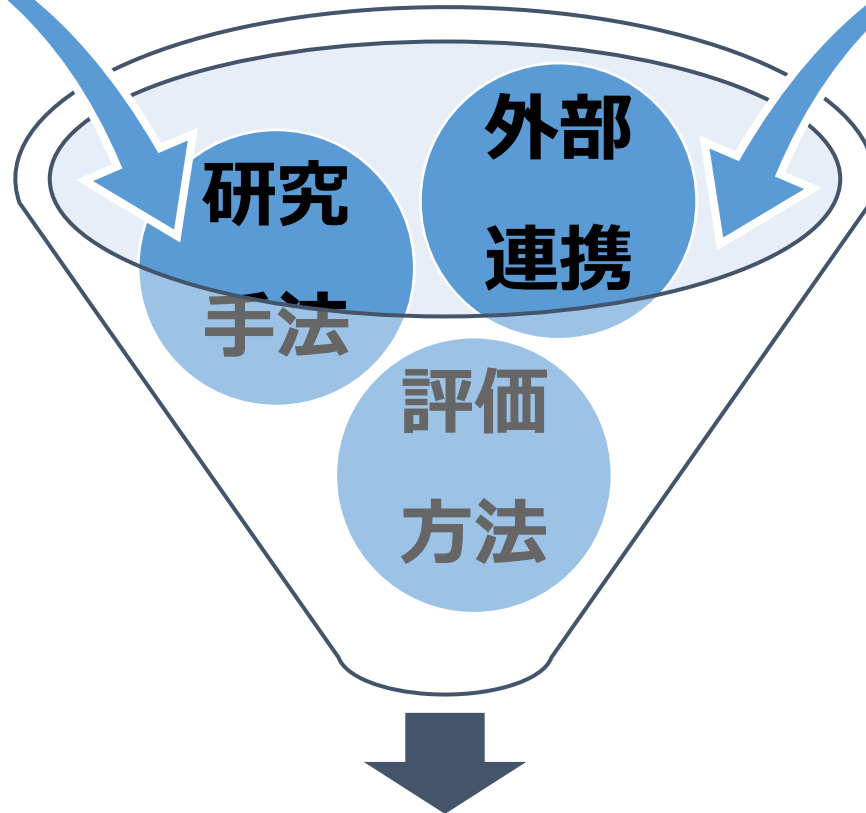
- ベトナム野菜の機能性評価
- やさしい日本語による災害対策
- 牡蠣によるハロン湾の浄化
- ミャンマーにおける置き薬事業の提案
- ブキドノン州における学校運営
～ジェンダー的視点からの考察～
- 長田区在住ベトナム難民の現状
からみる難民定住のための方策



創造基礎

創造応用

グローバルリサーチ



総合的な探究の時間

1. SGH通信

2. 高校生国際問題を考える日

3. 未来創造シンポジウム

「S G H通信」の発行

- 普通科グローバル
リサーチの活動報告
- 創造科学科の活動
報告
- 月間予定表
- 生徒・教員に配布
- H Pでも公開



創造科学科3期生 始動！！

1. 創造基礎オリエンテーション

本校視察客室において、創造科学科3期生(1年)対象に、「創造基礎オリエンテーション」を行った。このオリエンテーションは創造科学科2期生(2年)が新入生のために企画し、当日も運営のすべてを2期生が行った。まずはじめに、自己紹介を兼ねたアイスブレイクと名前連呼ゲームや英語を使ったグループ作りゲームなどを行った。次に、2期生が、昨年受けた授業をもとに、学校設定科目「創造基礎AJ」「創造基礎B」「RSE」のガイダンスを行った。スライドをもとに簡単に学習内容について説明した。最後に、「世代をこえてつながるまち」というテーマでワークショップを実施し、ワールドカフェ形式で考えを深めた。



〈生徒感想〉

役割分担では、司会が中心となってまずテーマを振り分けて、その後他のメンバーを振り分けるという風にもどプログラムも同じように円滑に進むように分担できたし、負担を分け合えたと思います。ワールドカフェのテーマ決めにはかなりの時間をかけて議論しました。新入生にとって難しく、今後は発展できるテーマを設定するのは難しかったけれど、逆にいつも自分たちが「テーマ」について違った視点で見たり、ゴールから逆算したりして、新し

兵庫県立兵庫高等学校 SGH推進委員 発行

い見方ができました。忙い中でしたが、時間を見つけて打ち合わせを重ねていけたと思います。

本番はあっという間に過ぎていきました。すごくいい雰囲気を選んでいって楽しかったです。名前連呼ゲームの進行をしていて、全員回らなかったグループができてしまったのが悔しかったです。でもすべてのゲームで1年生が笑顔を見せてくれてほっとしました。ワールドカフェではみんなたくさん自分の思いを話してくれて、私が1年のときよりもすごいと感じました。もちろん答えが1つに決まっているような簡単な議題ではなくて難しかったけれど、中身の濃い充実した時間でした。

実施時に1番重要なことは、緊張感のある雰囲気をつくらないことだと思います。前ゲームとかで場を和ませることに成功していたと思います。私はいつでも拍手したり、「いいーい」などを言って盛り上げることを心がけました。1番重視したのは、ファシリテーターとして1年生の意見をまとめることです。去年は違和感なく話し合いを進めていたが、それは先輩方が上手に進めてくださったからなんだと気づきました。自分もそんな風になれるかも不安だったので、家でもどんな風に話せば1年生にとって話し合いがしやすく、結果をまとめることができるかと考えていました。そのおかげで、昨年の先輩のようにできたかはわからないけど、結論まで導くことができたのでよかったです。

仲間作りゲームなどは、みんな楽しんで行っていたので、引き継ぎもつと面白いゲームを考えていってほしいです。ワールドカフェでは今回のようなローカルな話題以外にもグローバルな世界のテーマから、じゃあ地域では何ができると思う?という風にクイズアップさせる議題テーマも面白いと思います。また、1年後に同じ議題について話し合ってみて、過去の自分たちの意見との比較なども行っていたら面白いと思います。

2. 第8回来創シンポジウム

本校講堂において、本校創造科学科とグローバルリサーチを受講している生徒、県内の中学生、保護者、全国の学校関係者、一般の方を対象に、「グローバル化した社会におけるリーダーとは」をテーマに、第8回来創シンポジウムを開催した。まず、創造科学科1期生(3年)、同2期生(2年)、グローバルリサーチⅢ受講生(3年)が、会場された方々に向けて、これまでの研究についてポスターセッションを行った。



続いて、下記の要項でプログラムを進めた。

- 1 基調講演
「グローバル化した社会におけるリーダーとは」
日本紛争予防センター理事長 瀬谷ルミ子 氏
- 2 卒業生が実感している教科「創造」の成果
～卒業生のアンケートの分析より～
創造科学科長 大澤 哲
- 2 学校設定教科「創造」の取り組み(生徒発表)
① グローバルリサーチ
「ミヤンマーに置き薬を！」
～新ビジネスプランの提案～
普通科グローバルリサーチⅢ (3年)
- ② 創造基礎 (社会科学分野)
「人と人をつなぐインスタスポット」
創造科学科1期生(2年) 社会科学研究4班
- ③ 課題研究 (自然科学分野)
「浪漫 in the moon」
～クレーターから探る月の歴史～
創造科学科2期生(2年) 自然科学研究4班
- ④ 創造応用1L (社会科学分野)
「これからの英国の通商政策の予測」
創造科学科1期生(3年) *英語による個人発表

⑤ 創造応用1S (自然科学分野)
「脱燃料電池ってすごい」
創造科学科1期生(3年) 化学研究班



3 パネルディスカッション
「グローバル化した社会で

高校生に求められる力とは?」

司会: 創造科学科1期生(3年)

パネラー: 日本紛争予防センター理事長 瀬谷ルミ子 氏、創造科学科1期生(3年)2名、創造科学科2期生(2年)2名、創造科学科3期生(1年)2名 生徒のほかに、200名を超える方々に参加していただいた。



〈生徒感想〉

私は今日のパネルディスカッションに向けて、瀬谷さんやDORをしてらした伊勢崎賢治さんの本を読んだりして質問もいくつか考えていました。しかし、パネルディスカッションが始まると「次質問しよう」と考えている内に終わってしまいました。瀬谷さんも選択肢がいつまでも選べるわけではないから、選べる内に行動しないといけないとおっしゃっていました。まさにその通りで、ディスカッションが始まった時には持っていた選択肢が少し減っている間になくなってしまいました。せつかつ瀬谷さんのような方に質問をぶつけられる好機があったのにみすみす逃してしまい残念です。恐らく今私の前には、沢山の選択肢があって選ばれる数だと思います。

SGHの校内外への成果普及

第5回高校生「国際問題を考える日」

2018年2月3日神戸ファッションマート

来場者数：約400名

参加校数：30校（うちSGH・アソシエイト校11校）

- ・ 基調講演

WHO神戸センター野崎慎仁郎氏

- ・ パネルディスカッション

- ・ ポスターセッション

- ・ 講評

大阪大学柿澤寿信氏



S G Hの校内外への成果普及

HYOGO
High School

第8回未来創造シンポジウム

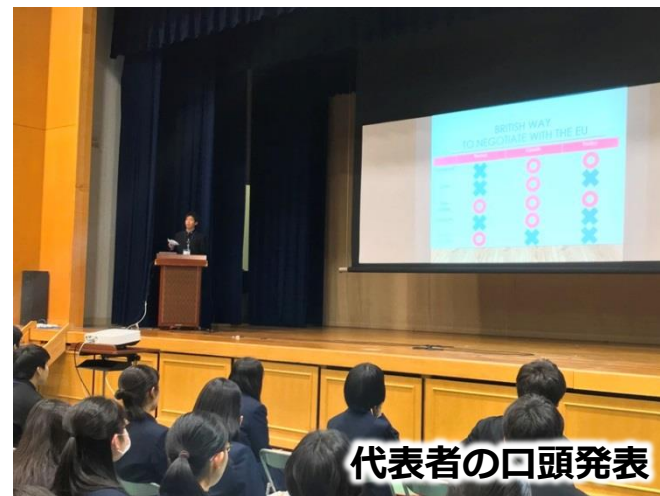
2018年4月14日 本校

来場者数：約150名

- ・ポスターセッション
- ・基調講演

日本紛争予防センター瀬谷ルミ子氏

- ・代表者による口頭発表
- ・講師を交えてパネルディスカッション



代表者の口頭発表



講師を交えてパネルディスカッション

卒業生アンケート

成果：「創造科学科」

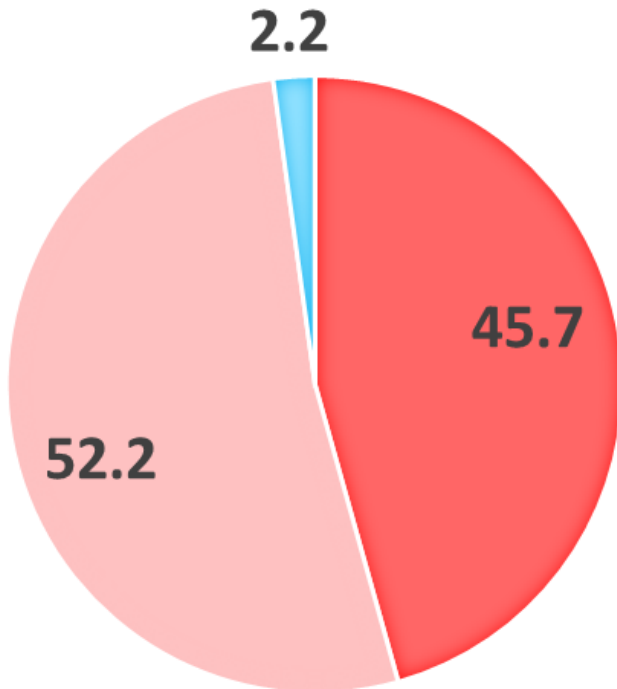
課題：「普通科」

質問 I 高校時代に身についたスキル

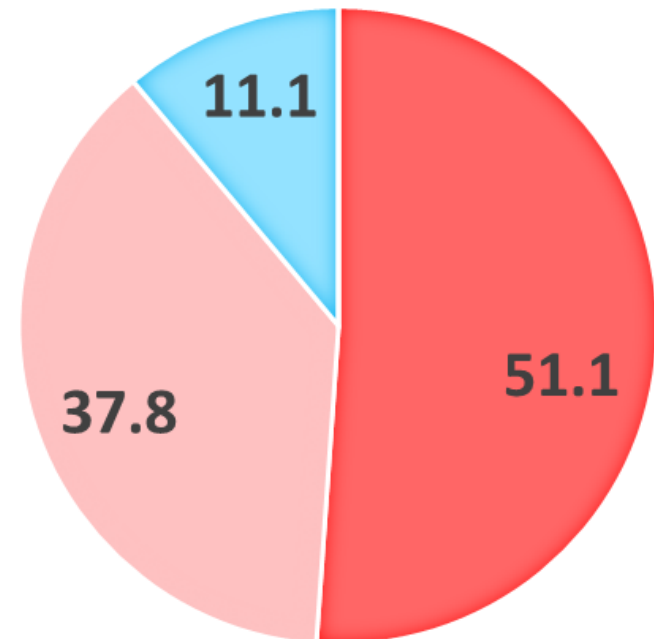
■ ①大いに身についた ■ ②ある程度身についた ■ ③あまり身につかなかった ■ ④身につかなかった

☆ 科学的思考力

(1) 論理的に物事を考える



(2) 筋道を立てて相手に伝える



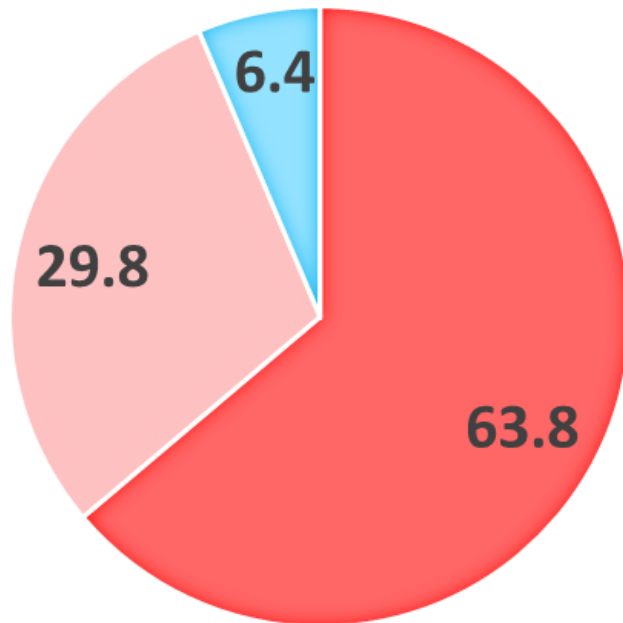
成果（創造科学科へのアンケート）

質問 I 高校時代に身についたスキル

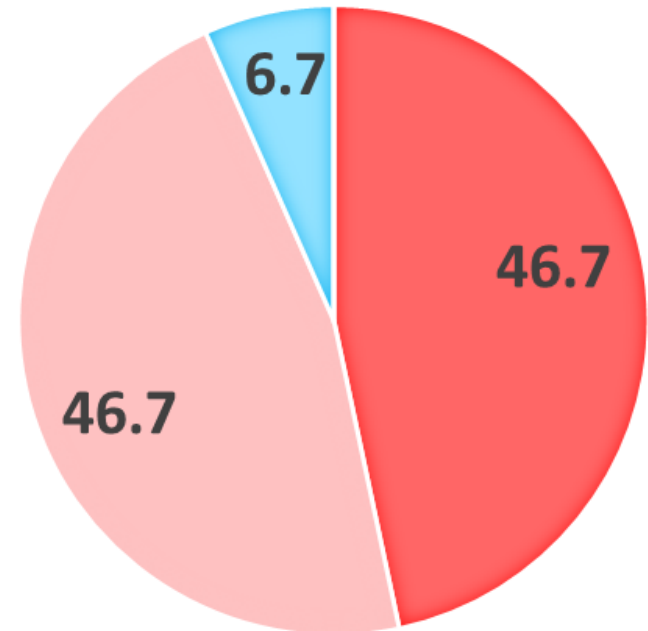
■ ①大いに身についた ■ ②ある程度身についた ■ ③あまり身につかなかった ■ ④身につかなかった

☆ 自律的活動力

(3)自ら主体的に活動する



(4)課題を掘り下げて自分で考える



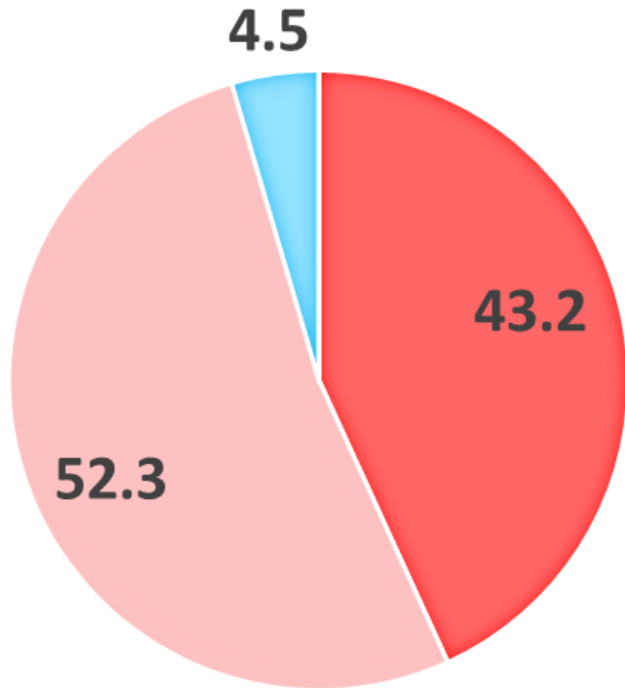
成果（創造科学科へのアンケート）

質問 I 高校時代に身についたスキル

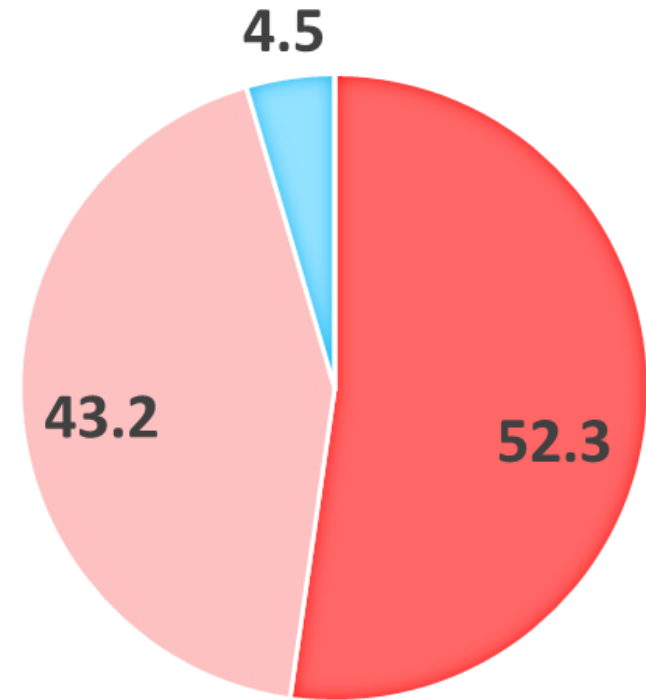
■ ①大いに身についた ■ ②ある程度身についた ■ ③あまり身につかなかった ■ ④身につかなかった

☆ 複眼的思考力

(5) いろいろな角度から物事を考える



(6) ディスカッションを進める



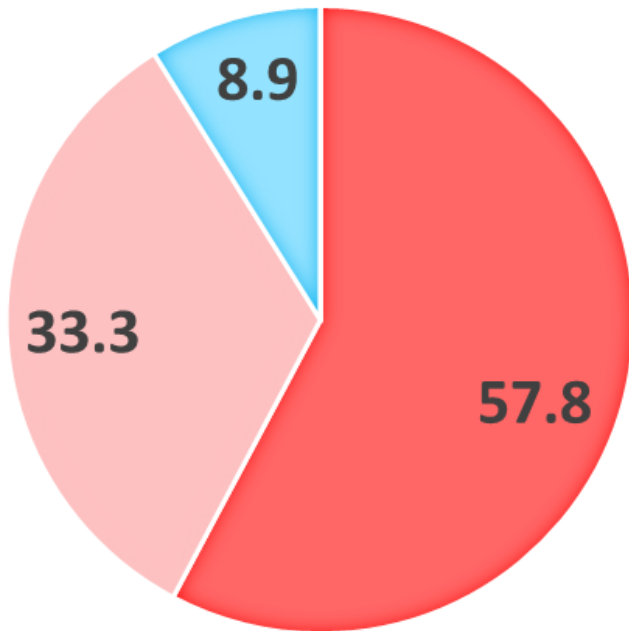
成果（創造科学科へのアンケート）

質問Ⅰ 高校時代に身についたスキル

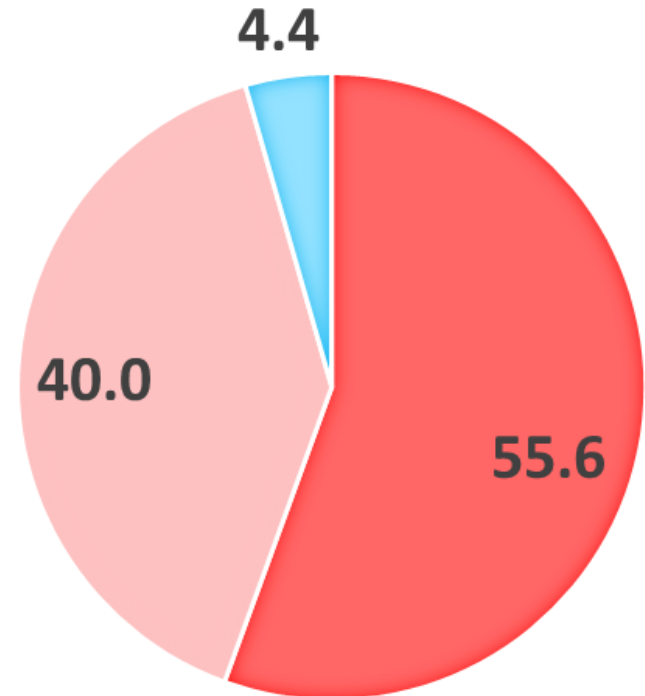
■ ①大いに身についた ■ ②ある程度身についた ■ ③あまり身につかなかった ■ ④身につかなかった

☆ 社会創造力

(7) いろいろな世代の人と交流する



(8) 正解のない問題に取り組む

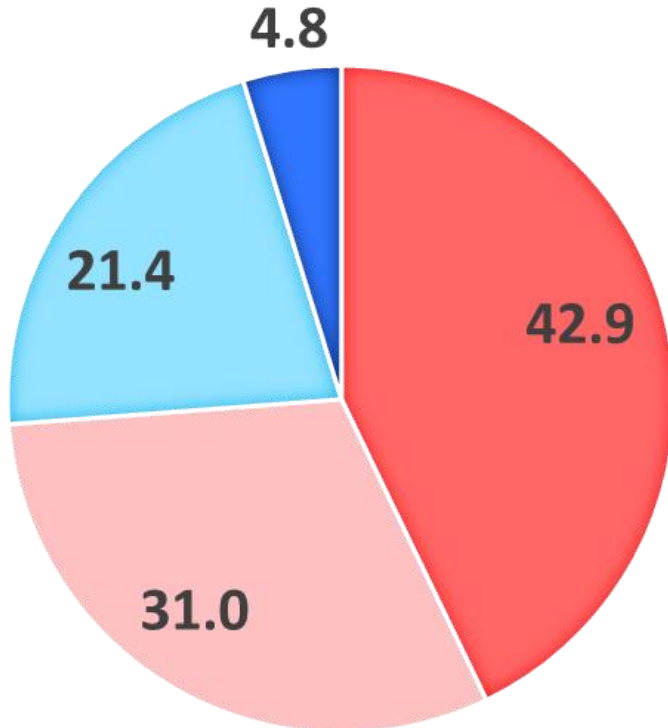


成果（創造科学科へのアンケート）

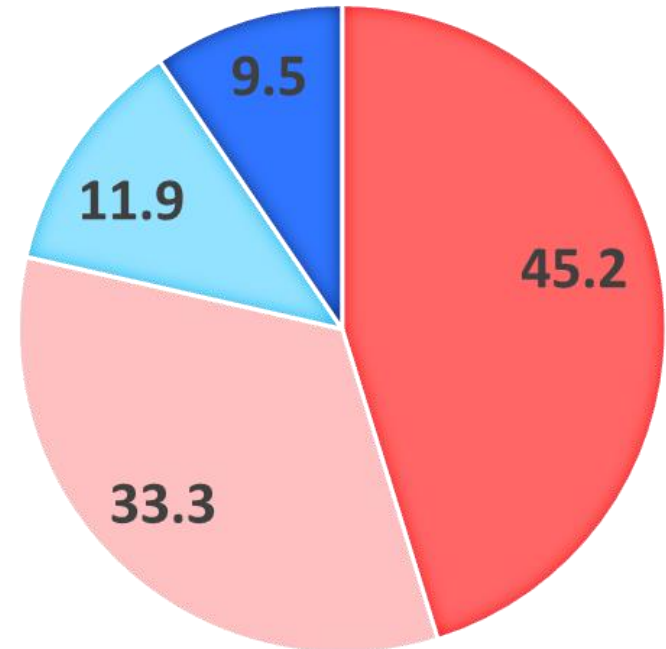
質問Ⅱ 本校のグローバル教育について

■ ① そう思う ■ ② どちらかといえばそう思う ■ ③ あまりそう思わない ■ ④ そう思わない

(1) 高校時代の学びの影響で、海外に目を向けるようになった



(2) 学生時代に海外研修や海外留学に行きたい



- 本校のSGHプログラムが目指す4つの力を十分育成することができている
- 自分の将来について課題研究と関連させて考えさせることができている
- 意識を国際社会に向ける生徒が増えてきている

- **活動の多くが生徒の自主性に依存している**
- **本校のSGH活動レベルを全生徒を対象にし、全教員で取り組むことは難しい**
- **部活動など他の課外活動との両立が困難である**